



Session Manager の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [Session Manager の概要, 1 ページ](#)
- [Session Manager の注意事項および制約事項, 2 ページ](#)
- [Session Manager の設定, 2 ページ](#)
- [Session Manager 設定の確認, 5 ページ](#)

Session Manager の概要

Session Manager を使用すると、バッチ モードで設定変更を実装できます。Session Manager は次のフェーズで機能します。

- **コンフィギュレーションセッション**：セッション マネージャ モードで実装するコマンドのリストを作成します。
- **検証**：設定の基本的なセマンティクス検査を行います。Cisco NX-OS は、設定の一部でセマンティクス検査が失敗した場合にエラーを返します。
- **確認**：既存のハードウェア/ソフトウェア構成およびリソースに基づいて、設定を全体として確認します。Cisco NX-OS は、設定がこの確認フェーズで合格しなかった場合にエラーを返します。
- **コミット**：Cisco NX-OS は設定全体を確認して、デバイスに対する変更をアトミックに実行します。エラーが発生すると、Cisco NX-OS は元の設定に戻ります。
- **打ち切り**：実装しないで設定の変更を破棄します。

任意で、変更をコミットしないでコンフィギュレーションセッションを終了できます。また、コンフィギュレーションセッションを保存することもできます。

Session Manager の注意事項および制約事項

Session Manager には、次の注意事項および制限事項があります。

- Session Manager がサポートするのは、アクセスコントロールリスト (ACL) 機能だけです。
- 作成できるコンフィギュレーションセッションの最大数は 32 です。
- すべてのセッションで設定できるコマンドの最大数は 20,000 です。

Session Manager の設定

セッションの作成

作成できるコンフィギュレーションセッションの最大数は 32 です。

手順の概要

1. switch# **configure session name**
2. (任意) switch(config-s)# **show configuration session [name]**
3. (任意) switch(config-s)# **save location**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure session name	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッションコンフィギュレーションモードを開始します。名前は任意の英数字ストリングです。 セッションの内容を表示します。
ステップ 2	switch(config-s)# show configuration session [name]	(任意) セッションの内容を表示します。
ステップ 3	switch(config-s)# save location	(任意) セッションをファイルに保存します。保存場所には、bootflash または volatile を指定できます。

セッションでの ACL の設定

コンフィギュレーションセッションで ACL を設定できます。

手順の概要

1. switch# **configure session name**
2. switch(config-s)# **ip access-list name**
3. (任意) switch(config-s-acl)# **permit protocol source destination**
4. switch(config-s-acl)# **interface interface-type number**
5. switch(config-s-if)# **ip port access-group name in**
6. (任意) switch# **show configuration session [name]**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure session name	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッションコンフィギュレーションモードを開始します。名前は任意の英数字ストリングです。
ステップ 2	switch(config-s)# ip access-list name	ACL を作成します。
ステップ 3	switch(config-s-acl)# permit protocol source destination	(任意) ACL に許可文を追加します。
ステップ 4	switch(config-s-acl)# interface interface-type number	インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	switch(config-s-if)# ip port access-group name in	インターフェイスにポートアクセスグループを追加します。
ステップ 6	switch# show configuration session [name]	(任意) セッションの内容を表示します。

セッションの確認

セッションを確認するには、セッションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# verify [verbose]	コンフィギュレーションセッションのコマンドを確認します。

セッションのコミット

セッションをコミットするには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# commit [verbose]	コンフィギュレーションセッションのコマンドをコミットします。

セッションの保存

セッションを保存するには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# save location	(任意) セッションをファイルに保存します。保存場所には、bootflash または volatile を指定できます。

セッションの廃棄

セッションを廃棄するには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# abort	コマンドを適用しないで、コンフィギュレーションセッションを廃棄します。

Session Manager のコンフィギュレーション例

この例では、ACL 用の設定セッションを作成する方法を示します。

```
switch# configure session name test2
switch(config-s)# ip access-list acl2
switch(config-s-acl)# permit tcp any any
switch(config-s-acl)# exit
switch(config-s)# interface Ethernet 1/4
switch(config-s-ip)# ip port access-group acl2 in
switch(config-s-ip)# exit
switch(config-s)# verify
switch(config-s)# exit
switch# show configuration session test2
```

Session Manager 設定の確認

Session Manager の設定情報を確認するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
<code>show configuration session [name]</code>	コンフィギュレーションファイルの内容を表示します。
<code>show configuration session status [name]</code>	コンフィギュレーションセッションのステータスを表示します。
<code>show configuration session summary</code>	すべてのコンフィギュレーションセッションのサマリーを表示します。

